

ダン神父との楽しい共同生活



瀧野正三郎神父

私が大和郡山教会の司祭館に住むようになったのは、2015年4月20日からで、ホセ神父が、日本を離れて間もなくでした。奈良教会では、人の出入りが多く、落ち着きがなかったのですが、こちらでは、のんびり過ごすことができました。

7月からは、日本語の勉強のために、那覇教区所属のフィリピン宣教会のダン神父と一緒に住むことになりました。司祭になって2年間だけは、共同生活をしていましたが、その後は、一人で生活をしていましたので、最初は緊張しましたが、慣れるにいたがって、楽しい時間を過ごすことができました。

ダン神父は、平日は大阪のYMCAに通っていましたので、夕食は彼が帰ってから一緒に食べていました。彼は、毎日、次の日の予習をされていて、

勉強の手伝いをしていました。日本人でも応えるのが難しい時もありました。また、聖書と典礼の祈願文や、共同祈願の祈りの言葉に、ふりがながついていないので、読めるよう助けていました。3月までの9ヶ月間でしたが、貴重な体験でした。敷地内には「浦上切支丹大和郡山流配者記念碑」があり、碑を見るたびに、明治になってから起こった「長崎浦上四番崩れ」のことに、胸が痛みます。

私の親愛なる先生 瀧野神父



ダン神父
(フィリピン宣教会)

2014年、私は大和郡山教会に正式な居住者として1年間派遣されました。その時、モデル通りの瀧野正三郎神父は郡山教会に滞在していました。

YMCA大阪で日本語を勉強しながら、

ら、学校に行く前の朝のミサで奈良ブロックの手伝いもしました。郡山教会は1年間、私の家となりました。それは、新しい文化、新しい学習、そして神と奈良の信徒との新たな出会いの経験でした。また、郡山で、完璧ではない言語を話すことに自信を持ち始めました。

瀧野神父は、私が郡山で過ごした時間の中で本当に大きな助けになりました。彼は私の家庭教師で、課題で何か問題があるときはいつでも助けを彼に求めました。郡山の信徒は、私の日本語の単語を導き、修正するのにも非常に役立ち、それらが、私が彼らと良好な関係を築くための道を開きました。

郡山での1年間の滞在は楽しいものでした。本当に速く、痛みもありませんでした。日曜日のミサ、私たちが分かち合った笑い、私たちが分かち合った物語は永遠に続きます。郡山の方々には、出発前に感謝してもしきれませんでした。心の底からドーモアリガトウゴザイマシタ。あなたの愛とケア、あなたの犠牲、そして私があなただけのコミュニティの一部になることを許してくれたことに感謝します。

ともに歩んだ日々の思いを心に



フェリペ神父
(グアダルペ宣教会)

献堂70周年を心よりお祝い申し上げます。この喜ばしい節目にあたり、かつてこの教会の歩みにご一緒させていただいた者として、心からの感謝と祝福の思いをお伝えいたします。大和郡山の地に主の家が建てられてから70年——。この教会は、祈りと信仰、そして多くの方々の奉仕と愛によって支えられ、地域における福音の灯として輝き続けてきました。歴代の司祭方、修道者、信徒の皆さまの献身を思い起こすたびに、神の豊かな恵みが注がれてきたことを改めて感じます。この節目の年が、これまでの歩みを振り返りつつ、これからの信仰の旅路を新たに始める機会となりますように。そして、聖霊の導きのもと、大和郡山教会がますます主の愛と希望を証しする場となりますよう、お祈り申し上げます。